

広報

つちうら

2017

8

Tsuchiura Public Relations

No.1201

お知らせ版



【平成29年7月6日】医療系専門学生と語らう“明日”の土浦

市民と市長のまちかどトーク

を開催しました

岡広報広聴課(☎内線2376)

【まちかどトークについて】

市では、市民と行政が一体となった協働のまちづくりの一環として、市長が市民の皆さんから直接、意見やアイデアなどを聴いて、市政の運営に取り入れています。

今年度は、市内にある医療系専門学校に通う生徒の皆さんの協力で、座談会形式で行いました。



まちかどトークを終えて

今回は、市内の方だけでなく市外の方、海外の方にもご参加いただきました。土浦市がより良いまちになるために、市内の方からは今までの体験・経験を踏まえた意見や提案、そして市外の方からは、「外から見た土浦」の良いところ、改善すべき点などについて教えていただき、大変充実したものとなりました。

土浦市長 中川 清





稲葉 彩さん【筑波保育医療専門学校】

土浦市はバスの運行本数の多さや高速道路の出入り口が2つあるなど、交通の便に関しては魅力的だと思います。しかし、安心安全の面で、駅周辺の明るさにくらべ、道を一本はいると街灯もなく暗いので、不安になることがあります。

安心安全の session3 まちづくり



郡司 美由紀さん
【土浦協同病院附属看護専門学校】

土浦市では、毎朝小中学生の登校を交差点などで見守る親や先生がいるので、安心して通学ができていて良いと思います。その反面、車の運転者マナーの悪さが目立つので運転者に対する交通安全対策を取り入れてほしいです。



佐藤 優香さん
【土浦市医師会附属准看護学院】

土浦市の魅力は、道に迷ったときや落し物をした際にまちの人が助けてくれるなど、他県から来た人でもなじみやすいところだと思います。しかし安全対策については、朝は交通量が多く、街中の狭い道や見通しの悪い道があるので歩道を広くすることなど、安全の確保が必要だと感じます。



中川市長

私は土浦市にとって、「安心安全のまちづくり」が一番大切だと思っています。町内会に対して行っている防犯灯の設置費・管理費の補助もその一環ですね。また、土浦市では地域防犯パトロール隊を各町内会で組織してもらっています。市内171の町内会のうち、167町内会で組織され、そのおかげもあり、事件も少しずつ減っています。今後もさらに減らしていきたいと思っています。



山下 祥子さん
【土浦市医師会附属准看護学院】

土浦市は豊かな自然に囲まれ、大きなイベントも多く、人を呼ぶ力はあると思います。また、今回のように市民の声を市政に反映させる体制が、まちづくりに興味を持つきっかけとなると思います。



阪 雪静さん【朝日国際医療福祉専門学校】

土浦市の良いところは自然に恵まれていることです。市内には果樹園が多いので、季節ごとにフルーツ狩りを行えば利益につながると思います。



陳 嬌さん【朝日国際医療福祉専門学校】

土浦市の「筑波山」と「霞ヶ浦」はとても有名です。いろいろなイベントが行われていますが、外国人には知られていないことが多く、その点をもっとPRするべきだと思います。

session4 土浦の魅力と PRについて



太田 千尋さん【筑波保育医療専門学校】

土浦市は駅前を中心に整備も進み新しくなり始めていると思います。しかし、土浦の良いところが市民にも市外の人にも十分に伝わっていないと思います。観光地や行事のPRはもちろんです。住むメリットや暮らしやすい制度などをPRすることも必要だと思います。



賈 明喆さん【朝日国際医療福祉専門学校】

土浦市にはたくさんの公園があり、中でも霞ヶ浦総合公園や乙戸沼公園は、たくさんの人が集まり、憩いの場になっており、すばらしいと思います。



杉田 菜奈美さん【アール医療福祉専門学校】

市外の人はもちろん、市民の方にももっと土浦の良いところを知ってもらい、土浦の魅力を再認識してもらうことが必要だと思います。



中川市長

今日は皆さんに「土浦にはこんなに良いところがあるよ」と土浦市の魅力たくさんを話していただきました。しかし、「魅力が多いのにPR不足」という意見もいただきましたので、皆さんの「声」を活かし、もっと魅力をPRしていけるよう努力します。また、皆さんには、今回のまちかどトークを機に、もっと土浦に興味を持っていただけたら大変うれしいです。そして、その魅力をまわりの人に伝えていただければそれがなによりのPRになると思いますので、お願いします。本日は貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

市民と市長のまちかどトーク



眞木 未波さん

【土浦協同病院附属看護専門学校】

私は活気があるまちに住みたいと思います。土浦市は、国際色豊かなまちで、外国人の方も多く働いています。以前、日系ブラジル人の方と仕事をすることがありますが、バイタリティにあふれており、とても楽しかったです。このような色々な国籍・出身の人達とももっと交流する機会が増えれば活気があるまちになると思います。



長谷川 実さん【アール医療福祉専門学校】

ひと口に「住みやすいまち」と言っても、物価が安い、移動手段がある、治安がよい、など様々な要素があると思いますが、土浦市はそれらを十分満たしているのではないかと考えています。ただ、人が減り、過疎になると住みにくさにつながってしまうと思いますので、なんとか人口流入を増やし、また主要施設を集約させるなどしてコンパクトシティを目指すのがいいのではないかと思います。



宮崎 翔太さん【アール医療福祉専門学校】

土浦市にリハビリテーション専門の病院を増やしてほしいと思います。また、医療系の学生が情報交換できるような場所を設置して、「土浦市といえば医療」と言ってもらえる様な環境をつくってほしいです。

session1 住みたい 良いまち



伊東 知夏さん

【土浦協同病院附属看護専門学校】

私は高校生の頃通学にバスを利用していましたが、一本乗り過ごすすと30分から1時間待たなくてはならず、「この時間を勉強などに使えるのに」と思っていました。バスなどの交通機関がもっと充実すれば、より住みたい町になると思います。



中川市長

土浦市を活気あるまちにするために、皆さんが話してくれた交通機関の充実や人口流入を増やすなど、しなければならぬことがたくさんあると思います。ですが、まちは皆さんの税金でできています。税金をより良く使うことが行政の仕事ですが、一度にたくさんの事業を行うことはできません。そのため、皆さんにも「活気あるまち」になるようご協力いただければ、「住みたいまち、住みやすいまち」になると思います。



今関 勇太さん

【筑波研究学園専門学校】

私は保育士を目指しています。最近メディアでも男性保育士について話題になることがありますが、土浦市にも、男性も保育士として働きやすい環境をつくっていただきたいと思っています。



倉持 朱里さん【筑波研究学園専門学校】

市民が住みやすいように、様々な取り組みを行うことが魅力に繋がると思います。土浦市は子育て家庭への支援が充実していると思いますので、さらにひとり親家庭などにも寄り添っていくことで、子育てや出産を中心とした住みやすいまちづくりに繋がるのではないかと思います。

子育て環境

session2



中川市長

保育士は女性が多い職種ですが、今後、男性保育士の需要も高いのではと思います。保育士に限ったことではないですが、性別に関係なく相手を認め、お互いを補い合う男女共同参画の実現が重要だと思います。市内には交流サロンや地域子育て支援センター、児童館などの施設があり、子どもだけでなく親同士の仲間づくりや育児相談などに活用されています。利用者数は増えていますが、さらにPRをしていって、子育て世代の方たちの住みやすさにつなげたいですね。



平田 紗生さん

【筑波研究学園専門学校】

私が考える住みやすいまちは、子育てがしやすいまちだと思います。土浦市では様々な福祉活動が行われていますが、その中でも特に児童福祉に着目しています。子育て支援活動として、地域の子育て世代の交流活動を促進するのがよいと思います。